

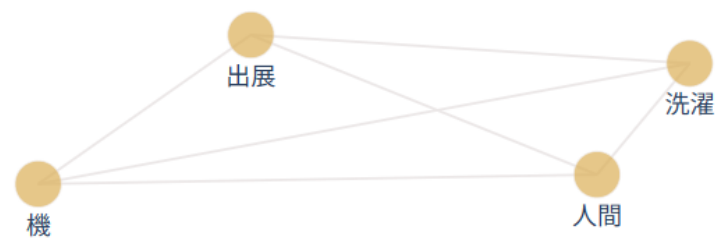
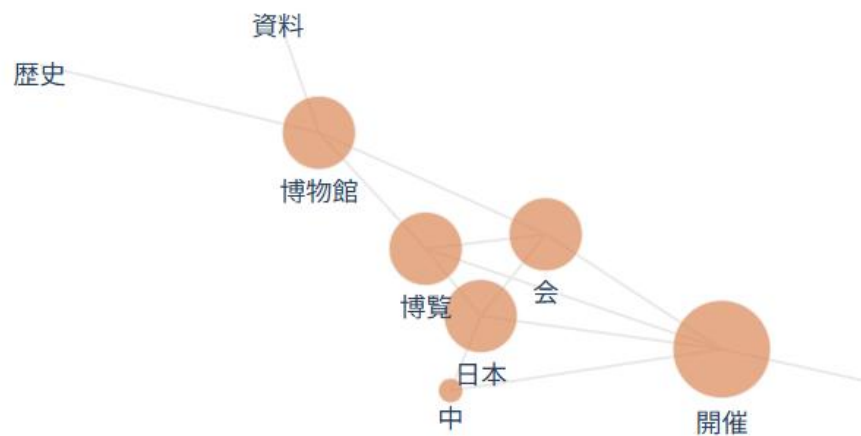
大阪万博について

202502099 菊池風雅

テーマ

- 私たちの班では、大阪万博が開催されてからの最初の一か月（4/13～5/13）と最後の一か月（9/13～10/13）の二つの期間に焦点を絞り、始めと終わりで万博の評判にどれだけ変化があったのかを調べました。

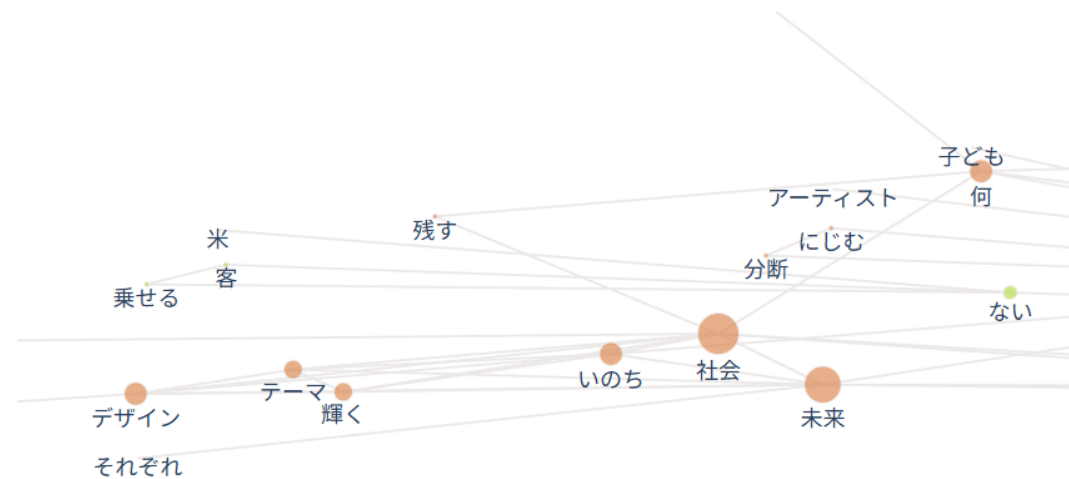
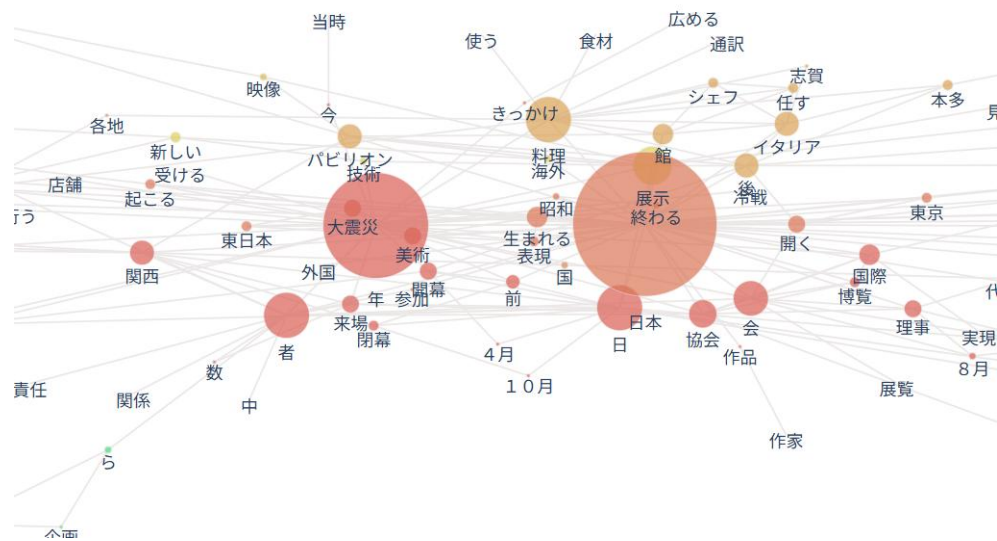
最初の1か月



ここから分かること・考察

- 「開催」が最もよく語られていたのは55年ぶりに開催されたことによる話題性や会場の状況などが中心であり、どんな雰囲気かがよく語られたことがわかる
- 「歴史」「博物館」「資料」などが近くに集まっていたのは、万博の“背景”や“意義”に触れた記事が当初は多かったことが考察できる
- 左側ではイベント全体の文脈（歴史・開催）なのに対し、右側では展示内容のレビューが主に書かれており、話題が大きく二つに分かれていることがわかる

終わりの1か月



ここから分かること・考察

- 「閉幕」「最後」「最終日」などが大きく出現し、記事の多くが”終わり”に関する内容にシフトしたことがわかる
- 「人」「多い」「混雑」「賑わう」などが結び付き、終盤になるにつれて観光客の興味が増え、賑わいの報道が多かったことがわかる
- 「社会」「いのち」「未来」「デザイン」などの群が見られたのは展示の”理念的テーマ”に関する記事が増えたからだと考えられる

まとめ

- 初月は「開催状況」「会場の雰囲気」など運営・背景が中心だったのに対し、終盤は「閉幕」「混雑」「賑わい」など”現場”の盛り上がりを中心となった
- 時間が進むほど、来場者の増加・盛り上がり・テーマ性への理解が深まった